

# Kansai Economic Insight Monthly

2014/2/21

Vol.10 January/February

・APIR “Kansai Economic Insight Monthly” は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。

・レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。

・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 研究統括）、岡野光洋・林万平・劉洋（各 APIR 研究員）です。

・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

要旨	1
景気の現況	2
中国景気モニター	7
主要月次統計	9
Release Calendar	10

## 要旨

- ✓ 12月関西の鉱工業生産は前月比+1.3%と2カ月ぶりの上昇。四半期ベースでも5期連続のプラス。2013年は緩やかな回復の年であった。
- ✓ 12月の関西の輸出額は前年比10カ月連続のプラス。一方、輸入も12カ月連続で増加。結果、貿易収支は4カ月連続の赤字。2013年の貿易収支は比較可能な統計開始以来初の赤字となった。
- ✓ 関西の景気ウォッチャー現状判断DIは3カ月ぶりに前月比低下、先行き判断DIも2カ月連続の悪化。また同月の消費者態度指数は2カ月連続で悪化。消費増税後の懸念が指標に表れている。
- ✓ 12月の全国賃金は3カ月連続の前年比プラス。11月の関西コア賃金は同7カ月連続のマイナス。関西の賃金の回復は全国に比して遅れている。
- ✓ 関西の12月の大型小売店販売額は、5カ月連続の前年比プラス。百貨店も5カ月連続のプラス。小売販売は持ち直している。
- ✓ 12月の関西の新設住宅着工戸数は4カ月連続で前年比増加。12月の関西マンション契約率は好不調を22カ月ぶりに下回った。
- ✓ 12月の関西の有効求人倍率は0.96倍、前月から0.02ポイントの上昇。3か月連続の改善。2007年12月以来の最高値を更新。
- ✓ 12月の関西の建設工事は前年比20カ月連続のプラス。建設工事の伸びは2桁を維持している。
- ✓ 14年1月の公共工事請負金額は、関西では前年比2カ月連続のプラス、季節調整値では前月比2カ月ぶりのマイナス。
- ✓ 中国製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、2014年1月に50.5となり、2カ月連続の減速となった。景気の先行きが懸念される。
- ✓ 中国の輸出入額(速報値、ドル・ベース)は、1月にともに前年比大幅に伸びた。うち日本への輸出額は12カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同9カ月連続のプラスとなった。結果、対日貿易収支は3カ月ぶりの黒字。

【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

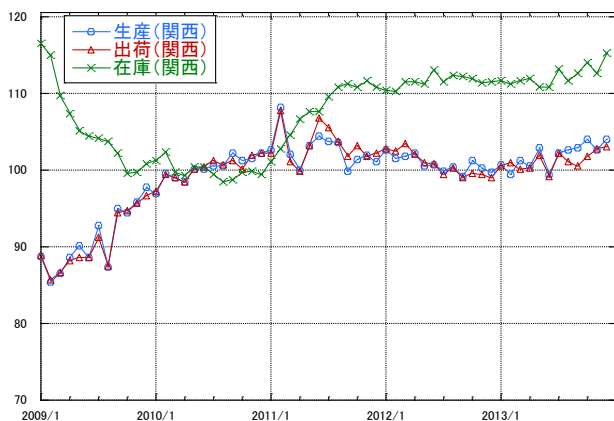
12月の鉱工業指数（速報値：季節調整済）を見ると、生産は104.0で前月比+1.3%と2カ月ぶりの上昇。出荷は103.1で同+0.3%と3カ月連続の上昇。在庫は115.3で同+2.3%と2カ月ぶりの上昇となっている。

業種別に生産指数をみると、金属製品(同+8.2%)、電気機械(同+2.6%)、輸送機械(除. 鋼船・鉄道車両)(同+3.8%)等が上昇した。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-1.7%)、電子部品・デバイス(同-3.3%)、石油・石炭製品(同-3.7%)等が低下した。

2013年関西の生産を四半期ベースで振り返ると、10-12月期は前期比+1.0%と5期連続のプラスとなった(7-9月期：同+1.6%、4-6月期：同+0.6%、1-3月期：同+0.1%、2012年10-12月期：同+0.6%)。結果、2013年の生産指数は101.9となり、前年から+0.4%小幅増加した。

なお、11月確報値より平成22年度基準に移行している。主要な産業のウェイト新旧対照表は以下の表の通りである。

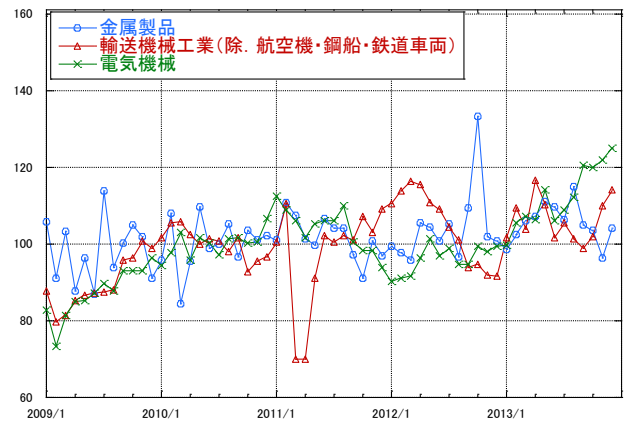
鉱工業指数の推移(関西：2013年12月まで、平成22年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局

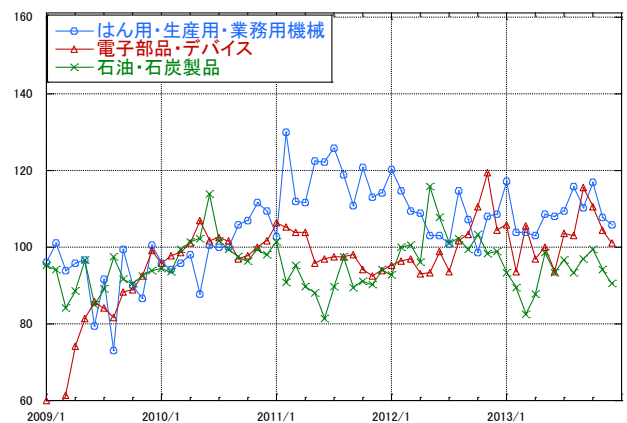
業種別生産指数の推移(関西：2013年12月まで、平成22年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局

業種別生産指数の推移(続き)



関西主要業種の生産指数におけるウェイトの変化

	平成22年度基準	平成22年度基準	平成17年度基準
はん用・生産用・業務用機械工業	1735.9	1678.1	1273.1
化学工業	1678.1	1678.1	1277.4
一般機械工業(旧分類)	1608.9	1608.9	1149.8
化学工業(除. 医薬品)	1251.7	1251.7	1413.1
電気機械工業	895.5	895.5	667.7
輸送機械工業	835.4	835.4	1912.4
食料品・たばこ工業	668.0	668.0	613.9
電子部品・デバイス工業	618.7	618.7	818.6
金属製品工業	569.5	569.5	418.1
輸送機械工業(除. 航空機・鋼船・鉄道車両)	552.2	552.2	1636.9
窯業・土石製品工業	533.5	533.5	315.8
プラスチック製品工業	525.2	525.2	507.5
鉄鋼業	478.4	478.4	391.1
情報通信機械工業	339.2	339.2	453.4

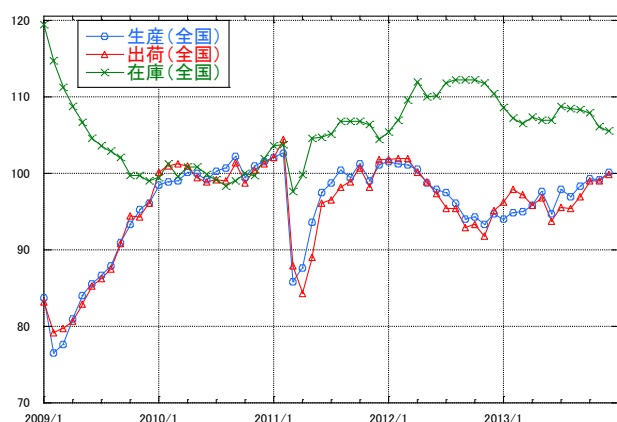
(2) 全国の生産動向

全国における12月の鉱工業生産指数（確報値、季節調整済）は100.1となり前月比+0.9%と2カ月ぶりの上昇、出荷は99.9で同+0.8%と9月以降上昇トレンドにある。結果、在庫は105.6で同-0.5%と5カ月連続の低下となった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+4.0%)、電子部品・デバイス(同+1.7%)、輸送機械(同+0.6%)等を中心に生産は上昇した。一方、食料品・たばこ(同-1.6%)、情報通信機械(同-0.8%)、繊維(同-1.3%)等は低下した。

2013年全国の生産を四半期ベースで見ると、10-12月期は前期比+1.8%、7-9月期は同+1.7%、4-6月期は同+1.5%と4期連続の増産が続いた。月次データでは落ち込みも見られたが、2013年全国の生産は回復を続けている。

鉱工業指数の推移 (全国：2013年12月まで、平成22年=100)



(出所) 「鉱工業指数」、経済産業省

## 【貿易動向】

### (1) 輸出

近畿圏における12月の輸出額(確報値)は1兆3,084億円、前年同月比+10.6%と10カ月連続の増加。輸出は、鉄鋼、有機化合物、事務用機器を中心に増加している。

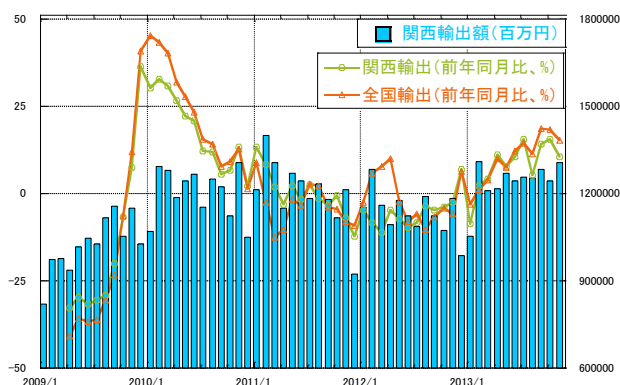
地域別では、アジア(前年同月比+8.7%)、中国(同+21.1%)、米国(同+12.9%)、EU向け(同+14.5%)輸出はいずれも増加している。中国向けはアジア向けに比して前年の輸出が低水準であったため、伸びが大きくなっている。

さらに品目別に輸出額(2013年ベース)を見ると、アジア向けでは、電気機器(前年比+7.9%)、原料別製品(同+8.5%)、化学製品(同+8.6%)等が輸出に寄与した。うち中国向けを見てみると、その他(同+17.2%)、化学製品(同+15.1%)、電気機器(同+4.7%)等が大きく増加した。米国向けでは、電気機器(同+19.9%)、一般機械(同+6.2%)、その他(同+18.1%)等が好調で

あり、EU向けでは、一般機械(同+12.8%)、化学製品(同+7.8%)、その他(同+4.6%)等の伸びが大きい。

全国12月の輸出額(確報値)は6兆1,096億円、前年同月比+15.3%と10カ月連続の増加。円安の持続を背景に、輸出は近畿、全国共に大きく改善してきている。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2013年12月まで)



(出所) 「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課

### (2) 輸入

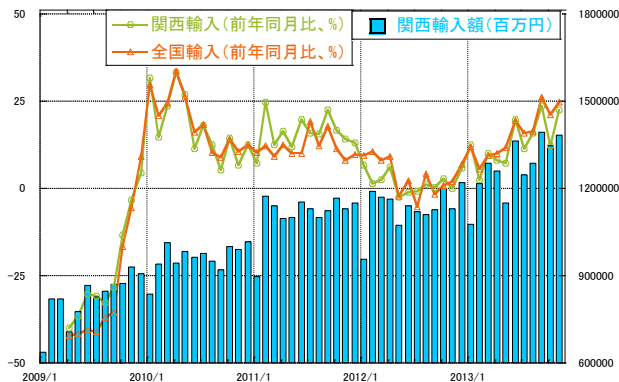
近畿圏における12月の輸入額(速報値)は1兆3,847億円、前年同月比+22.5%と12カ月連続のプラス。天然ガス及び製造ガス(過去最高)、通信機(12月過去最高)、半導体等電子部品(12月過去最高)を中心に、輸入は大幅に増加してきている。

地域別では、アジア(前年同月比+22.2%)、中国(同+23.4%)、米国(同+6.6%)、EU(同+32.3%)からの輸入がいずれも増加した。特に、中国からの輸入は4月以降2桁の伸びを維持している。

なお、品目別に見ると、対前年比では、アジアからは、電気機器(同+22.6%)、その他(同+15.1%)、製品類(同+16.3%)等の輸入増が大きい。うち中国からは、電気機器(同+20.5%)、その他(同+13.0%)、一般機械(同+19.3%)等が増加している。米国からは、製品類(同+11.9%)、食料品(同+11.0%)、化学製品(同+9.3%)、等の輸入が増加しており、EUからは、その他(同+27.6%)、化学製品(同+7.0%)、一般機械(同+25.8%)等が増加している。

全国の12月の輸入額(速報値)は7兆4,138億円、前年同月比+24.7%と14カ月連続の増加。輸入増加には原油、液化天然ガス、半導体等電子部品が大きく貢献した。

輸入(右、100万円)・前年同月比(左、%)推移(2013年12月まで)



(出所)「財務省貿易統計」、財務省

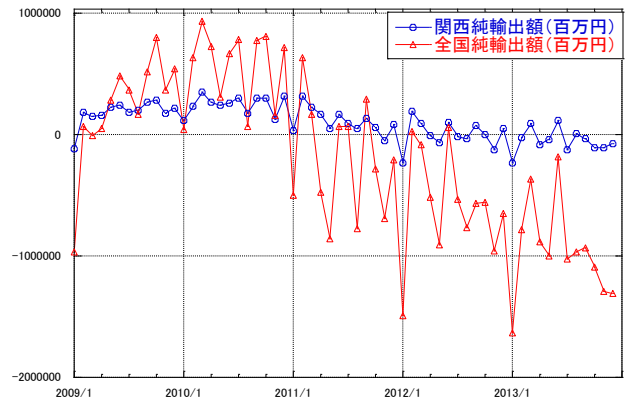
### (3) 純輸出

近畿圏における12月の純輸出額は762億円と4カ月連続の赤字となった。地域別に見ると、対アジア貿易収支は11カ月連続の黒字となったものの、黒字幅は4カ月連続で縮小した(前年同月比-39.1%)。対中貿易は22カ月連続の赤字であり、赤字幅は4カ月連続で拡大(同+30.4%)した。対米貿易は黒字基調が続いており、貿易収支は3カ月連続の増加(同+21.5%)。対EU貿易は9カ月連続の赤字となった。

全国の12月の純輸出額は1兆3,042億円と18カ月連続の赤字となり、赤字幅は6カ月連続で拡大している(前年同月比+102%)。貿易収支は近畿、全国共に赤字が続いているが、近畿に比して全国の様子は厳しさを増している。

結果、2013年の純輸出額は、近畿圏で-6,080億円(輸出額14兆6,367億円：対前年比+7.8%、輸入額15兆2,446億円：同+12.6%)となり、1979年の統計開始以来初の赤字となった。全国は-11兆4,581億円(輸出額69兆7,869億円：同+9.5%、輸入額81兆2,450億円：同+14.9%)と3カ月連続の赤字となり、赤字幅も対前年比+65.4%となった。2013年の貿易収支は、近畿は黒字の月もあり(黒字3カ月、赤字9カ月)、純輸出額が小幅な赤字に止まったが、全国は一貫して赤字を計上したこともあり、前年と比較しても大幅な赤字となった。

純輸出(百万円)推移(2013年12月まで)



(出所)「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課

### 【消費者センチメント】

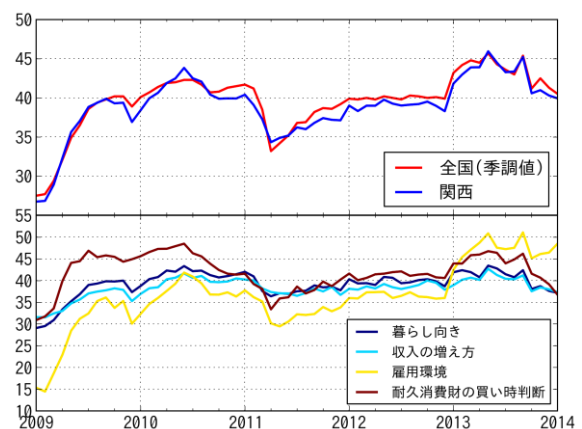
#### (1) 消費者態度指数の動向

関西の1月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.4ポイント下落し39.9となった。2カ月連続のマイナス。

同指数の構成項目をみると、「雇用環境」指標を除く3指標が前月から悪化した。「暮らし向き」が同-0.5ポイント、「収入の増え方」が同-0.7ポイントといずれも2カ月連続のマイナス。「耐久消費財の買い判断」は4カ月連続のマイナスとなり、同-2.4ポイントと落ち込みが大きい。一方、「雇用環境」は同+2.1ポイント3カ月連続で上昇、高水準を維持している。

なお全国の1月の消費者態度指数(季節調整値)は40.5となり、同-0.8ポイントと2カ月連続で前月から悪化している。

消費者態度指数(2013年1月まで)



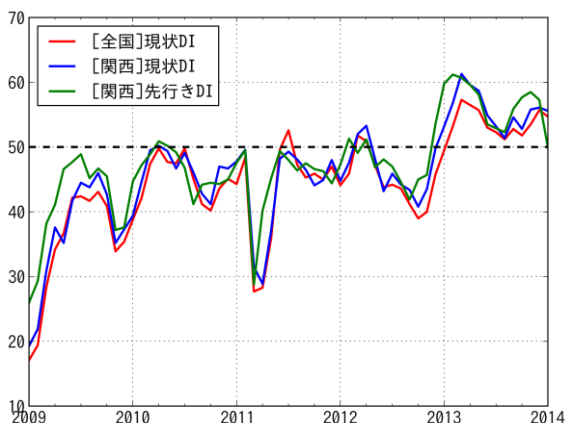
(出所) 内閣府「消費動向調査」(平成26年2月10日公表)

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の1月の現状判断DIは前月比-0.5ポイントの55.6と3カ月ぶりに悪化した。全国の現状判断DIも同-1.0ポイントの54.7と3カ月ぶりの悪化。乗用車や家電を中心とする駆け込み需要の動きが続いているものの、正月休み後に飲食店等の売上が低迷したことがマイナスに働いた。

一方、関西の先行き判断DIは同-7.4ポイントと大幅悪化し49.9、全国の先行き判断DIも同-5.7ポイントの49.0となり、いずれも2カ月連続で悪化。消費増税後の懸念が指標に表れている。なお先行き判断DIが50を下回るのは関西・全国とも14カ月ぶりである。

景気ウォッチャー調査(2013年1月まで)



(出所) 内閣府(平成26年2月10日公表)

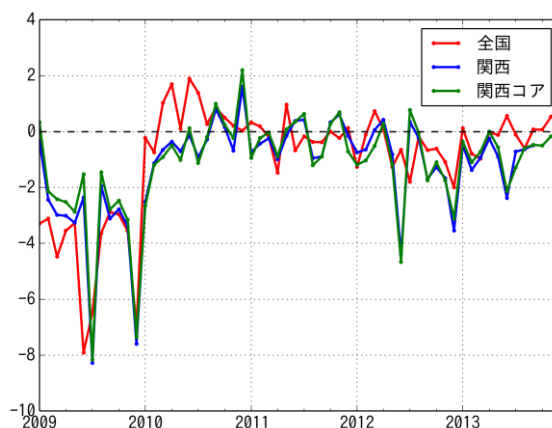
【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

速報性のある「関西コア」指数(京都・大阪・兵庫の現金給与総額の加重平均値、APIR 推計)を用いて関西の賃金をみると、11月は前年同月比-0.2%と7カ月連続の下落となった。なお、関西2府4県の9月の現金給与総額(APIR 推計)は260,465円と、前年同月比-0.5%減少した。14カ月連続のマイナス。

全国では11月に同+0.5%、12月は同+0.6%と3カ月連続で改善している(いずれも確報値)。関西の賃金の回復は全国に比して遅れている。

現金給与総額(前年同月比：%、2013年12月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

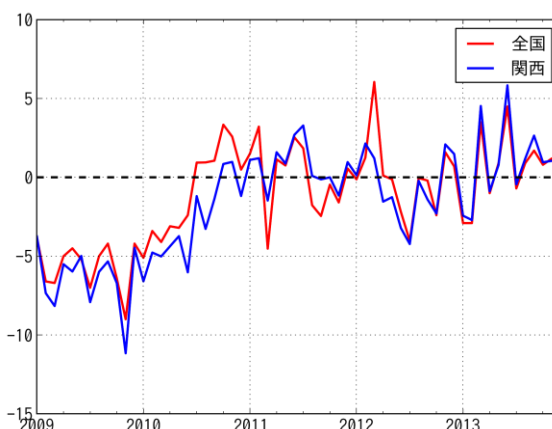
(出所)：厚生労働省「毎月勤労統計調査」(平成26年2月18日公表)を加工

(2) 大型小売店販売額

関西の12月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース：確報値)は、前年同月比+1.0%と5カ月連続のプラス。百貨店も同+2.3%と5カ月連続のプラス。スーパーは同-0.0%と4カ月ぶりのマイナス。

なお全国でも、12月の大型小売店販売額(全店ベース：確報値)は同+0.9%と5カ月連続のプラスとなっている。

大型小売店販売額 (前年同月比：%、2013年12月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動態統計」(平成26年1月30日公表)

(3) 新設住宅着工の動向

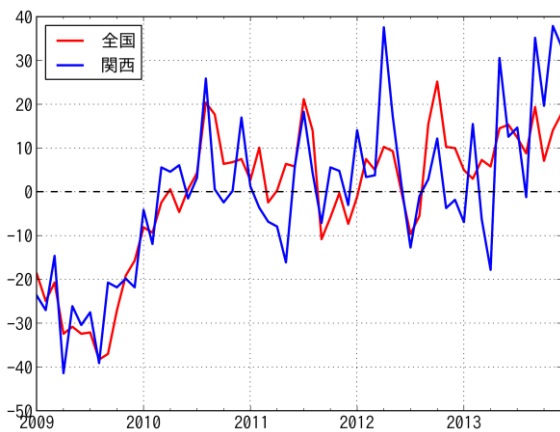
関西の12月の新設住宅着工戸数は14,737戸。前年同月比+33.1%と4カ月連続で上昇。利用関係別にみると、持家は同+22.5%と11カ月連続の上昇、貸家が同+49.2%と6カ月連続の上昇。分譲も同+28.5%と4カ月連続で上昇した。

全国の新設住宅着工戸数は同+18.0%と16カ月連続で上昇。

12月の関西マンション契約率(出所:不動産経済研究所「マンション市場動向」)は69.9%(季節調整値、APIR推計)。原数値(69.7)とともに好不調の目安とされる70%を22カ月ぶりに下回った。

注文住宅を消費税5%で購入できる請負契約の期限は過ぎたものの、相続税制改正に伴う節税対策もあり、住宅市場は貸家を中心に好調を維持している。

新設住宅着工(上図、前年同月比: %、2013年12月まで)



(出所) : 国土交通省「住宅着工統計」(平成25年1月31日公表)

【雇用動向】

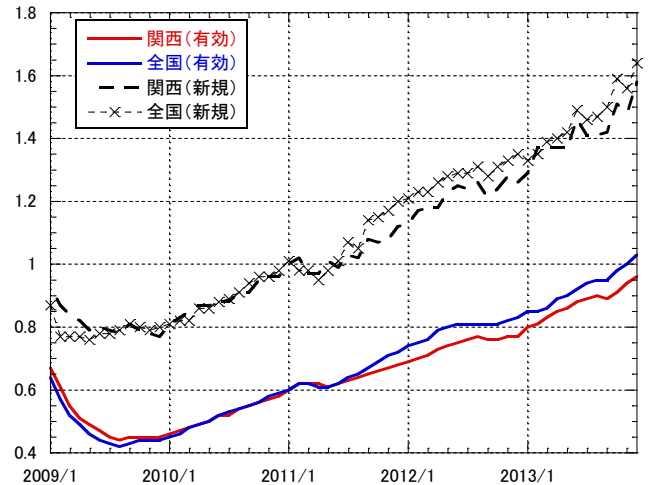
(1) 求人倍率の動向

12月の関西の有効求人倍率は0.96倍、前月から0.02ポイントの上昇。3か月連続の改善となった。2007年12月以降の最高値(0.98)を更新。全国は1.03倍で、先月から0.03ポイント上昇。3カ月連続の上昇となった。

12月の新規求人倍率は、関西は1.58倍と前月より0.10ポイント上昇。全国は1.64倍と同0.08ポイントの上昇となった。

関西の有効求人倍率を府県別に見ると、大阪府は全国平均を上回り1.06となった。その他の府県は全国平均を下回った。

有効求人倍率の推移(季節調整値、2013年12月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況(平成25年1月31日発表)

関西2府4県有効求人倍率(2013年12月)

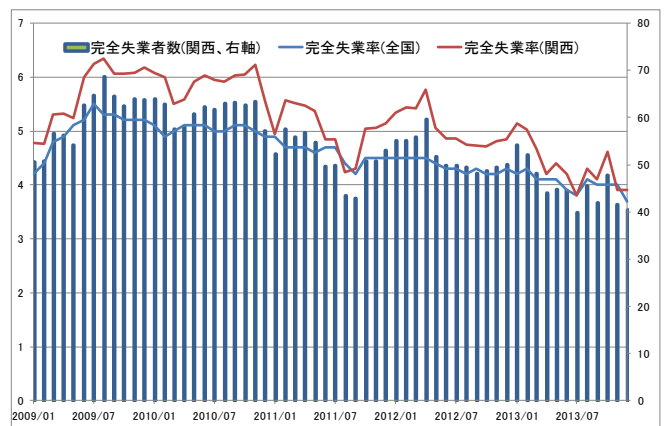
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
12月	0.93	0.87	0.95	0.96	1.06	0.81	0.91	0.95
11月	1.00	0.94	0.91	0.96	1.03	0.78	0.89	0.96

(2) 完全失業率の推移

12月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は3.9%となった。前月と横ばいだが4%を割り込むのは2008年3月以来である。全国の完全失業率(季節調整値)は3.7%となり、前月から0.3%ポイント低下。2007年12月以来の低水準である。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は40.5万人。前月から1.0万人減少した。

完全失業率の推移(季節調整値、2013年12月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」(平成26年1月31日発表)

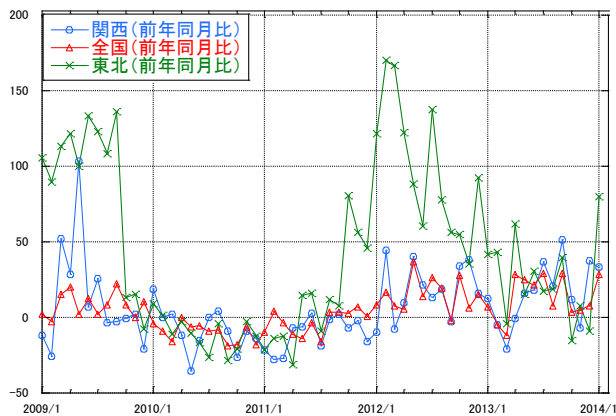
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

2014年1月の関西の公共工事請負金額は943億円。前年同月比+33.2%と2カ月連続のプラス。2014年始めとしては、好調なスタートとなった。全国は7,776億円と同+28.8%、10カ月連続のプラス。東北は1,820億円と同+80.0%と、2カ月ぶりの大幅プラス。全国的に公共工事は大幅増となっており、特に東北の伸びが顕著である。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は2カ月ぶりの前月比マイナス(関西：同-5.2%)となった。これに対して、全国は2カ月連続のプラス(全国：同+19.1%)であり、2013年5月以来の2桁の伸びとなった。

公共工事請負金額(前年同月比：%、2014年1月まで)



(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

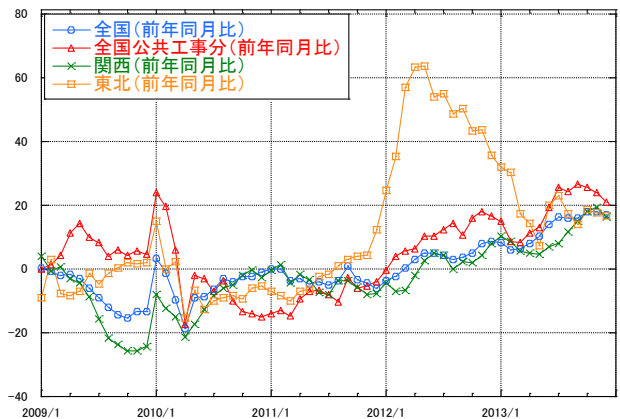
(2) 建設工事

関西12月の建設工事は5,950億円。前年同月比+16.4%と20カ月連続のプラス。関西の伸び率は2桁を維持している。東北は6,186億円と同+16.6%と29カ月連続のプラス。なお同月の全国の建設工事は4兆9,202億円となり、同+16.9%と22カ月連続のプラス。うち公共工事は2兆2,598億円、同+20.9%と23カ月連続のプラス。

四半期ベースで前年比を見ると、2013年関西は増加傾向であった(1-3月期：同+8.2%、4-6月期：同+5.7%、7-9月期：同+11.7%、10-12月期：同+17.9%)。東北は大きな伸びを見せた(1-3月期：同+25.8%、4-6月期：同+14.1%、7-9月期：同+17.9%、10-12月期：同+17.6%)。この背景には、全国の

建設工事の高まりもさることながら(1-3月期：同+6.9%、4-6月期：同+10.8%、7-9月期：同+16.3%、10-12月期：同+17.6%)、復興事業に伴う公共工事の増加が大きな要因となっていると考えられる(1-3月期：同+10.6%、4-6月期：同+14.5%、7-9月期：同+25.7%、10-12月期：同+23.4%)。

建設工事(前年同月比：%、2013年12月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【中国景気モニター】

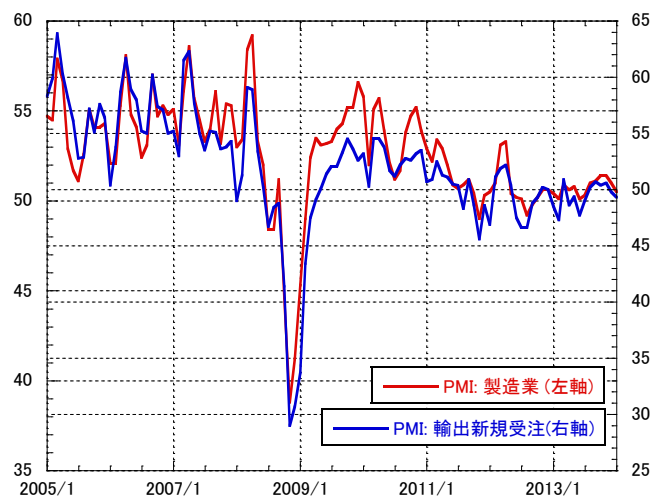
(1) センチメント<sup>1</sup>

製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、2014年1月に50.5となり前月より0.5ポイント低下となり、2カ月連続の減速となった。うち、生産指数は53.0となり、前月(53.9)より0.9ポイントと大幅に低下し、2カ月連続の悪化となった。輸出新規受注指数は49.3となり、前月(49.8)より0.5ポイントと低下し、50を下回る状況が2カ月続いている。さらに、新規受注指数は50.9となり、前月より1.1ポイントと大幅に低下した(4カ月連続の悪化)。また、1月の雇用指数は48.2となり、前月(48.7)から0.5ポイント低下した。2012年6月以来、20カ月連続で50を下回っている。

1月に製造業PMI指標の悪化は、中国の春節の影響によるものだと中国国家統計局が分析しているが、経済成長の更なる減速が懸念されている。

<sup>1</sup>中国国家統計局は、工業生産、固定資本投資、消費は、1-2月を合わせて報告し、3月に公表する予定である。

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年1月まで：%)



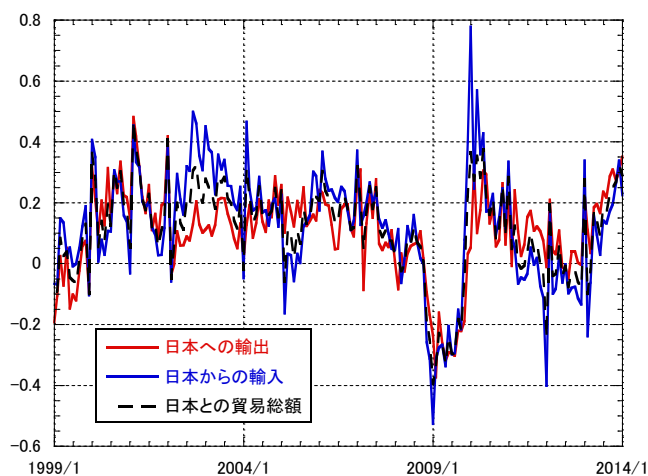
出所：中国国家统计局; CEIC データベース

## (2) 貿易動向

中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は1月に前年同月比+10.6%と前月(同+4.3%、確定値)より大幅に伸びた。一方、輸入額も同+10.1%(速報値)と前月の伸び(同+8.3%、確定値)から加速した。

うち日本への輸出額は同+16.0%となり、5カ月連続のプラス。伸びは前月(同+5.5%)から上昇した。一方、日本からの輸入額は同+5.1%と3カ月連続のプラス。伸びは前月(同+8.2%)から減速した。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+35.1%(前月+30.5%)と12カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+22.5%(前月+33.8%)と9カ月連続のプラスとなった。結果、対日貿易収支は3カ月ぶりの黒字となった。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年1月まで：%)



出所：中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

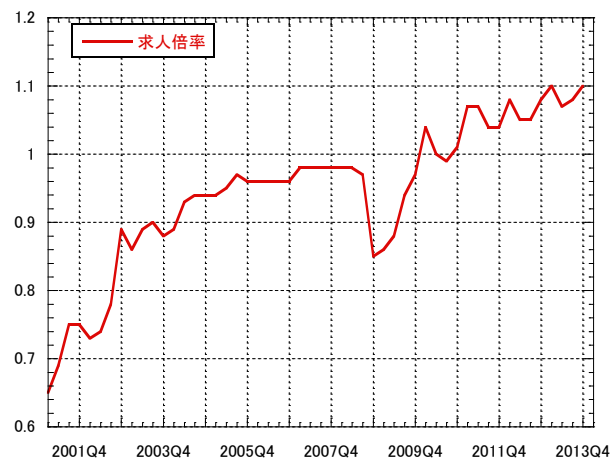
## (3) 労働市場動向

求人求職倍率について、2013年10-12月期の有効求人倍率は1.10となり、7-9月期よりやや上昇した。求人数と求職者数を見ると、求人数は前年同期比-3.3%と減少し、求職者数は同-6.3%と減少した(92主要都市ベース)。

地域別に見ると、東部の求人倍率は1.11、中部1.07、西部1.16となっている。

職種別の求人倍率をみると、専門技術職(1.10)、商業とサービス業に従事する職(1.25)、農林牧漁水利の生産に従事する職(1.05)と、生産運輸設備を操作する職(1.20)が高い一方、管理職(1.00)と事務職(0.73)は低い。技術など現場作業に求人が求職を上回る一方、ホワイトカラーの職には求職が求人を上回ることが示されている。

求人求職倍率 (2013年第4四半期まで)



出所：中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース



【主要月次統計】

月次統計	13/01M	13/02M	13/03M	13/04M	13/05M	13/06M	13/07M	13/08M	13/09M	13/10M	13/11M	13/12M	14/01M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	53.2	56.8	61.3	59.6	58.7	54.9	53.2	51.4	54.6	52.8	55.8	56.1	55.6
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	53.2	56.3	62.6	59.6	58.8	55.0	52.0	48.8	53.0	50.4	54.6	54.1	53.7
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	59.8	61.2	60.7	59.6	58.1	53.5	52.9	52.3	55.9	57.7	58.5	57.3	49.9
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	49.5	53.2	57.3	56.5	55.7	53.0	52.3	51.2	52.8	51.8	53.5	55.7	54.7
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	48.3	51.7	56.9	55.5	54.4	52.2	50.6	49.3	50.6	49.2	51.3	53.1	52.2
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	56.5	57.7	57.5	57.8	56.2	53.6	53.6	51.2	54.2	54.5	54.8	54.7	49.0
消費者心理・小売り													
[関西]消費者態度指数(原数値)	41.8	43.0	43.9	43.9	46.0	44.5	43.3	43.4	45.2	40.6	41.0	40.3	39.9
[関西]「暮らし向き(原数値)	41.9	42.4	42.0	40.8	43.5	42.8	41.5	40.8	42.4	38.1	38.7	37.6	37.2
[関西]「収入の増え方(原数値)	39.0	40.2	40.7	40.2	42.7	41.3	40.4	40.3	41.2	37.6	38.4	38.0	37.3
[関西]「雇用環境(原数値)	42.5	45.4	47.1	48.7	50.9	47.6	47.3	47.6	51.1	45.1	46.1	46.5	48.6
[関西]「耐久消費財の買い時判断(原数値)	44.0	43.9	45.9	46.0	46.8	46.4	44.0	44.9	46.2	41.6	40.7	39.2	36.7
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	43.2	44.2	44.8	44.5	45.7	44.3	43.6	43.0	45.4	41.2	42.5	41.3	40.5
[関西]乗用車新規登録届出数(前年同月比%)	-6.2	-8.7	-13.8	4.7	-6.3	-10.6	-10.0	-0.5	14.0	17.9	UN	UN	UN
[関西]家電販売額(前年同月比%)	-12.3	-5.3	-3.2	-8.9	-0.5	12.6	-13.8	4.6	-4.8	3.3	UN	UN	UN
[関西]大型小売店販売額(10億円)	329.6	277.3	316.7	297.4	303.7	317.2	333.5	303.7	289.4	305.0	329.6	416.0	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-2.4	-2.7	4.5	-0.9	0.8	5.8	-0.4	1.2	2.7	1.0	1.1	1.0	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1687.2	1423.9	1659.8	1550.9	1588.9	1638.5	1712.7	1582.3	1506.0	1586.0	1696.3	2139.4	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-2.9	-2.9	3.5	-1.0	0.9	4.5	-0.7	0.9	1.7	0.8	1.2	0.9	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	10112.0	11063.0	10895.0	10262.0	12403.0	12215.0	12622.0	11537.0	13606.0	14873.0	13938.0	14737.0	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-6.9	15.5	-6.2	-17.8	30.6	12.6	14.7	-1.2	35.2	19.7	37.9	33.1	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	69289.0	68969.0	71456.0	77894.0	79751.0	83704.0	84801.0	84343.0	88539.0	90226.0	91475.0	89578.0	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	5.0	3.0	7.3	5.8	14.5	15.3	12.4	8.8	19.4	7.1	14.1	18.0	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	84.6	80.4	82.8	78.3	78.2	75.9	84.6	79.0	83.3	77.8	79.4	69.7	UN
[関西]マンション契約率(原数値)	74.9	77.1	83.6	79.8	82.3	80.7	87.0	81.1	80.5	79.6	76.0	69.9	UN
[全国]マンション契約率(季節調整値)	73.7	79.4	77.6	76.1	76.8	77.5	80.8	84.7	84.9	82.0	79.4	74.7	UN
[全国]マンション契約率(原数値)	69.2	76.4	82.1	78.2	78.1	81.6	81.6	81.5	83.5	79.6	79.6	76.1	UN
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	74.6	90.7	130.5	178.2	143.2	150.6	146.6	119.1	167.5	135.7	111.2	112.6	94.3
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	12.0	-6.8	-14.1	4.2	16.0	17.8	37.2	20.8	51.4	12.2	-7.0	37.8	33.2
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	603.9	670.8	1233.8	1599.1	1084.2	1386.8	1572.5	1226.7	1523.5	1523.5	1524.5	1525.5	1526.5
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	6.7	-4.8	-11.7	28.6	24.8	21.7	29.4	7.9	29.1	29.1	30.1	31.1	32.1
[関西]建設工事(総合、10億円)	558.7	560.1	547.4	448.6	426.1	443.6	453.3	483.0	521.8	540.2	569.5	595.0	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	9.5	8.4	5.0	5.0	4.8	7.2	8.2	11.7	15.0	18.1	19.3	16.4	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4088.9	4108.1	4106.2	3293.9	3312.3	3536.3	3721.3	3981.3	4319.8	4549.6	4779.7	4920.2	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	8.3	6.0	6.3	7.9	10.3	14.2	16.5	16.1	16.2	18.1	17.9	16.9	UN
[関西]建設工事(公共工事、10億円)	1824.5	1851.5	1867.1	1256.4	1189.8	1289.5	1397.5	1567.3	1811.8	1997.6	2171.5	2259.8	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	15.2	8.6	8.3	11.3	12.9	19.3	25.8	24.3	26.7	25.6	24.2	20.9	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、05年=100)	100.7	99.4	101.3	100.6	103.0	99.5	102.2	102.7	102.9	104.1	102.7	104.0	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	3.4	-2.0	2.1	-0.9	3.1	-2.7	2.1	-0.2	-0.2	1.6	-3.2	1.3	UN
[関西]「出荷指数(原数値、前年同月比%)	-9.4	-9.4	-9.4	-9.4	-9.4	-2.9	4.6	-0.6	0.1	1.2	1.0	5.1	UN
[関西]「在庫指数(原数値、前年同月比%)	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	-4.3	0.3	-0.9	-0.8	1.2	-0.4	3.3	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、05年=100)	100.6	101.0	100.1	100.3	101.9	99.2	102.2	101.1	100.6	101.8	102.8	103.1	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、前月比)	1.5	0.4	-0.9	0.2	1.6	-2.6	3.0	-1.1	-0.5	1.2	1.0	0.3	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、05年=100)	111.7	111.2	111.7	112.0	110.9	110.9	113.2	111.7	112.6	114.1	112.7	115.3	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	0.1	-0.4	0.4	0.3	-1.0	0.0	2.1	-1.3	0.8	1.3	-1.2	2.3	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	94.1	94.9	95.0	95.9	97.7	94.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.1	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.6	0.9	0.1	0.9	1.9	107.0	3.4	108.5	108.3	108.0	112.7	1.0	UN
[全国]「出荷指数(原数値、前年同月比%)	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	-5.1	1.4	-1.3	4.6	5.7	6.6	6.3	UN
[全国]「在庫指数(原数値、前年同月比%)	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	-2.9	-2.8	-3.3	-3.5	-4.0	-5.1	-4.3	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	96.3	98.0	97.2	95.8	96.8	93.7	95.6	95.5	96.9	99.1	99.1	99.9	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、前月比)	1.2	1.8	-0.8	-1.4	1.0	-3.2	2.0	-0.1	1.5	2.3	0.0	0.8	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	108.6	107.3	106.6	107.4	107.0	107.0	108.7	108.5	108.3	108.0	106.1	105.6	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.6	-1.2	-0.7	0.8	-0.4	0.0	1.6	-0.2	-0.2	-0.3	-1.8	-0.5	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-0.5	-1.4	-0.9	-0.3	-0.9	-2.4	-0.7	-0.6	-0.5	UN	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	-0.4	-1.1	-0.7	0.0	-0.6	-2.1	-1.3	-0.6	-0.5	-0.5	UN	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.1	-0.8	-1.0	0.0	-0.1	0.6	-0.1	-0.6	0.1	0.1	0.5	0.6	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	5.1	5.0	4.7	4.2	4.4	4.2	3.8	4.3	4.1	4.6	3.9	3.9	UN
[関西]完全失業率(原数値)	5.1	5.0	4.9	4.3	4.4	4.1	3.8	4.4	4.1	4.7	3.9	3.6	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	4.2	4.3	4.1	4.1	4.1	3.9	3.8	4.1	4.0	4.0	4.0	3.7	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.29	1.37	1.37	1.37	1.37	1.46	1.41	1.41	1.42	1.51	1.48	1.58	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.33	1.35	1.39	1.40	1.42	1.49	1.46	1.47	1.50	1.59	1.56	1.64	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	0.80	0.81	0.83	0.85	0.86	0.88	0.89	0.90	0.89	0.91	0.94	0.96	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	0.85	0.85	0.86	0.89	0.90	0.92	0.94	0.95	0.95	0.98	1.00	1.03	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	-233.5	-24.4	93.8	-78.6	-42.6	118.2	-121.4	8.5	-32.6	-110.4	-104.5	-76.3	UN
[関西]輸出(10億円)	986.1	1054.0	1310.9	1209.0	1216.9	1270.0	1243.0	1257.0	1254.4	1284.7	1242.7	1308.4	UN
[関西]輸出(前年同月比%)	6.9	-8.7	2.2	4.1	11.1	7.9	10.6	15.7	5.3	14.3	15.7	10.6	UN
[関西]輸入(10億円)	1219.5	1078.4	1217.2	1287.0	1259.6	1152.0	1364.4	1248.2	1287.0	1395.0	1347.2	1384.7	UN
[関西]輸入(前年同月比%)	6.3	12.6	2.3	10.0	8.2	7.2	19.8	11.4	15.8	23.7	12.2	22.5	UN

注1：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

## Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
3-Feb  1-Feb 中国製造業 PMI (1月)	4-Feb	5-Feb  毎月勤労統計 (12月：速報値)	6-Feb	7-Feb
10-Feb 景気ウォッチャー調査 (1月) 消費動向調査(1月)	11-Feb	12-Feb  中国輸出入 (1月：速報値) 近畿鉱工業生産指数 (11月速報)	13-Feb マンション契約率(1月)	14-Feb 商業動態調査 (12月確報)
17-Feb 全国鉱工業生産指数 (12月確報) 公共工事前払保証額 統計(1月) 建設総合統計 (12月)	18-Feb 毎月勤労統計 (12月：確報値)	19-Feb 近畿貿易統計 (1月速報) 全国貿易統計 (1月速報)	20-Feb	21-Feb
24-Feb	25-Feb 近畿鉱工業生産指数 (11月確報)	26-Feb 中国輸出入 (1月：確報値(予定)) 近畿貿易統計 (12月確速) 全国貿易統計 (12月確速)	27-Feb 全国鉱工業生産指数 (1月速報)	28-Feb 商業動態調査 (1月速報) 新設住宅着工(1月)  完全失業率(1月) 求人倍率(1月)
3-Mar	4-Mar 毎月勤労統計 (1月：速報値)	5-Mar	6-Mar	7-Mar